

2022年度 JKA 補助事業の概要

事業の目的

- ・地域で孤立する家族を発見し、家族会へとつなげる
- ・家族同士のピアサポートとして実施される「家族による家族学習会」(以下、家族学習会)プログラムを全国に普及させ、特に未実施の地域などでの実施数を増やし、その効果を示してことで、将来的には制度化を実現することを目的とする

1. 家族による家族学習会「セミナー」

「家族学習会」がどのようなものか知っていただくためのセミナーです。

ご関心のある方であれば、どなたでも参加することができます。2022年度は山口県とリモートで2回開催し、リモート版では、74名の方にご参加いただきました。



山口県(7月23日)



リモート(2月16日)

2. 家族による家族学習会「担当者養成研修会」

家族学習会には、実施・運営する「担当者」がいます。担当者は、家族学習会を運営するために、担当者養成研修を受けた人(精神障害者の家族)です。家族学習会の意義や、開催のノウハウ、人の体験を聴く際の心構えなど、基本的なプログラムと理論を学びます。2022年度は6か所で実施しました。そのうち2か所はリモートでの開催となっています。



群馬県(7月14日)



岡山県(6月18日)

3. 家族による家族学習会「アドバイザー養成研修会」

「家族学習会」がスムーズに開催できるように家族学習会を運営する「担当者」を支援し、「家族学習会」や「担当者養成研修会」で講師を務めるなどの役割が担えるようになるための研修会です。担当者経験があるなど参加資格のある人が対象です。今年度は、コロナ禍のためリモートで開催しました(2月6日)。



4. アドバイザーフォローアップ研修会

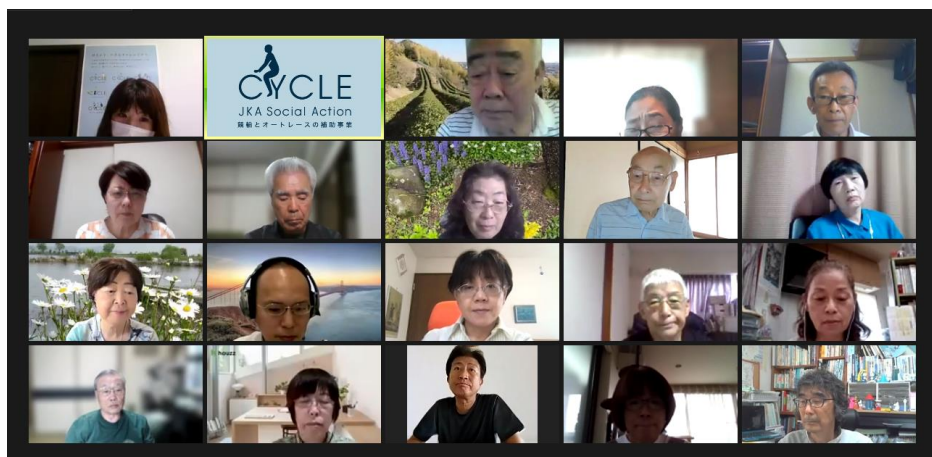
「家族学習会」の担当者をフォローするアドバイザーが集まって、情報交換やよりよい「家族学習会」の開催に向けた検討、また、「家族学習会」が未開催の地域へのアプローチについてなど、さまざまなコミュニケーションの場として開催しています。今年度はコロナ禍のため、リモートで開催しました(3月1日)。



5. 企画委員会

実施開催場所の検討やプログラム内容の改善など「家族学習会」事業の企画を行っています。全国のアドバイザーや家族会の事務局員、学術研究者などで構成し、年 4 回開催しています。

企画委員会は、リモートで開催しました(5月30日、9月26日、12月19日、3月6日)。



予想される事業実施効果

2 予想される事業実施効果

精神疾患 5 大疾病に含まれているにもかかわらず、社会的な偏見により、家族はどこかに相談することもできずに孤立してしまっている状況は少なくありません。そのような社会的に孤立状態にある家族が知識や情報を含めて「仲間」を得ることができるために、ピアサポートプログラム「家族による家族学習会」を提供する体制を整備してきました。今年度の実施実績は、家族学習会セミナー112名参加、担当者養成研修会81名参加となっています。これらの研修会を受講した方たちを中心として、次年度も引き続き公益財団法人 JKA の補助事業として、「家族学習会」を開催いたします。

学習会の効果は、① 精神科疾患と精神障害についての正しい知識を得て、ピアの家族同士で場面ごとの対応や工夫が共有できること ② 家族の持つ偏見が解消し、日常的な生活場面での視点に変化がうまれること ③ 疾患と障害をもつ当事者との関係性にゆとりができること ④ ①～③により、家族自身が自分の人生を生きることが楽になること ⑤ 家族が充実した人生を送ることが、ひいては当事者のリカバリーに繋がることが挙げられます。

精神疾患・障害に対する偏見や差別は残念なことに根強いものがあります。この「病気・障害への偏見」が、本人や家族を苦しめ、孤立させ、結果的に回復を遅らせる要因の一つになっているともいえます。「家族による家族学習会」は学びと共に、自分自身の中にある内なる偏見に気づき、そこから解放されることで、気持ちが少し楽になり、本来の自分自身を取り戻すきっかけ

けをつくることもねらいの一つです。家族が自分の人生を歩んでいいんだと理解できると、本人とよりよい関係性の再構築につながります。単に知識を学ぶだけにとどまらず、人としての尊厳の回復をもめざしているプログラムとして普及させていきたいと考えています。

【事業内容についての問い合わせ先】

公益財団法人全国精神保健福祉会(みんなねっと)事務局